

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	海域潜水訓練時に発生した鼓膜強痛、及び平衡感覚の失調
3. 体験した事例の中心的要素	勤務明けの非番日において、海域潜水訓練のため、指揮者、船舶隊員及び潜水隊員で管内訓練海域に出向した。訓練を開始し、潜降時に当該事例当事者が耳抜きができず、左耳に痛みを伴った。しかしそのまま我慢をして潜降を続けたところ、水深9メートル付近で左鼓膜に激痛を生じ、平衡感覚を失った。すぐに緊急浮上し、訓練を中止した。その後、気分不良、及び強い嘔気が発生し、体動困難となったため、救急搬送となった。収容先の病院では、気圧性中耳炎と診断されたもの。
4. 体験した事例の原因・理由	訓練前に体調不良であったが、そのことを報告できず、無理をして訓練を継続してしまった。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成27年9月17日 午前9時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：海域
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：左鼓膜強痛（気圧性中耳炎）
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[救助（通常時）]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	その他：海域潜水訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[30]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[2] 年、階級[消防士] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	訓練を実施した小隊	海域潜水訓練開始。	
経過2	潜水隊員	事故発生付近海域にて潜降開始。	
経過3	当事者A	左鼓膜に強痛を発症し、平衡感覚を失ったため、緊急浮上。 訓練中止。	
経過4	当事者A	救急搬送をされる。	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	はい
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

事故当日、体調不良を報告できずに無理をし、事故が発生してしまった。その後は、些細なことでも報告を心掛けている。

○装備・資機材の対策について

訓練前の点検に重きを置いていたが、訓練後の資器材点検にも重きを置き、実施している。

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

災害発生状況写真 1



事故現場付近海域（栈橋）



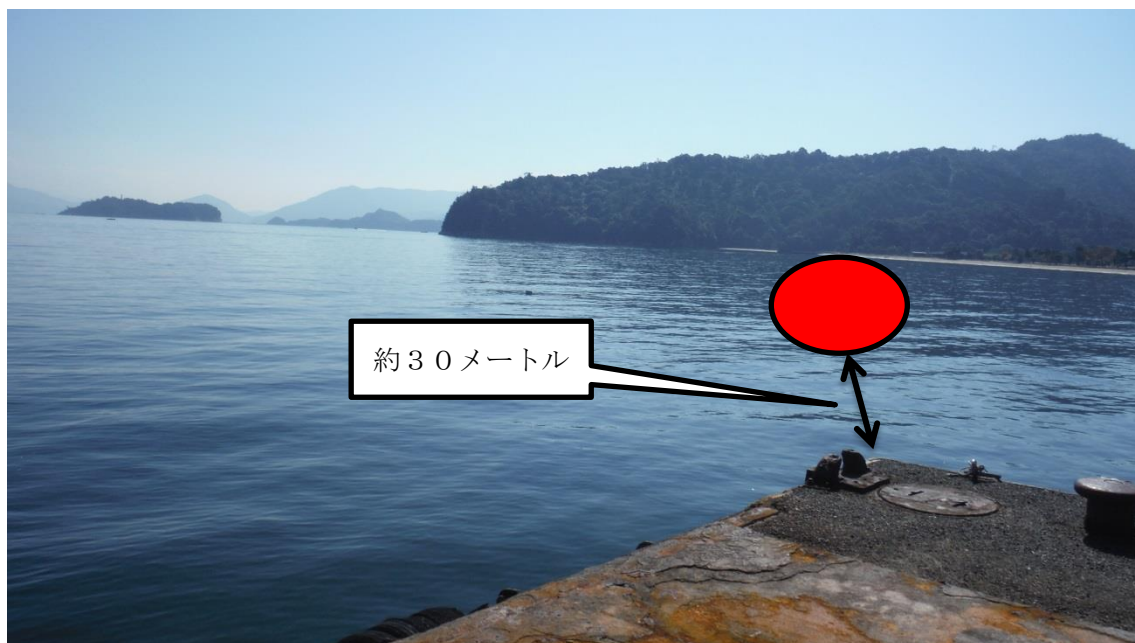
栈橋を東（海側）へと進んだ位置



さらに東（海側）へと進み、行き止まり。



事故現場付近。



事故現場付近（拡大）

災害発生状況写真 2

訓練時の装備装着状況
(正面)



(背面)



スクーバ潜水での潜降状況



潜降中に水圧により鼓膜が圧迫された時に感じる違和感や痛みを無くするため、耳抜きという行為が必要となる。今回の事故は、潜降中の耳抜き行為時に発生した。(水深約9メートル)